

開会のごあいさつ

一般社団法人日本飼料用米振興協会 理事長 海老澤恵子

一般社団法人日本飼料用米振興協会のシンポジウムにご参加いただきありがとうございます。

一般社団法人日本飼料用米振興協会は、法人設立後 10 年目に入り、飼料用米普及のためのシンポジウムも今回第 10 回となりました。この間、各方面の皆さまから日本飼料用米振興協会の活動にご理解とご協力をいただき、大変感謝いたしております。

2020 年からの 3 回は、新型コロナウイルスの感染防止のため規模を縮小したり、オンライン併用で開催してまいりましたが、昨年 7 月に第 9 回目を 4 年ぶりに東京大学弥生講堂で行うことができました。

2008 年に「畜産大パニック阻止学習会」からはじまり、その後任意団体「超多収穫米普及連絡会」を経て現在に至っておりますが、私たちは当初から、日本の食料自給率の向上は、減反水田に耕畜連携による超多収性の飼料用米を作付けすることによって間違いなく実現できるとの信念と、合わせて減反水田の活用による環境保全もできるとの考えで活動してきました。

しかし、16 年を経た現在、畜産はもとより、農業生産全体への危機感は一層増しています。

世界各地での終わりの見えない戦争、国際社会での分断や対立の激化、地球規模での気候変動の中で、わが国の食料安全保障の脆弱さに不安を抱かざるを得ません。

今こそ、日本の食料自給率向上の取組みを一層強めること、そのための飼料用米の安定供給こそが求められていると考えます。

本日は東大の鈴木宣弘先生から録画での講演をしていただき、事例報告として、いずれも意欲的、先進的に飼料用米の生産、活用や普及を実践していらっしゃる生産者団体と生協の 3 名の方に発表していただきます。

また、日本飼料用米振興協会として「食料・農業・農村基本法改正へ向けての政策提言」を提示させていただき、これらを踏まえて、意見交換へと進める予定です。

この会は、生産者・生産者団体、流通、飼料など農業関係の企業、生協、消費者、研究者、学生、行政・自治体、報道関係 他、多方面の皆さまが一堂に会して意見や疑問を出し合い、一緒にわが国の食料問題について考える場として設定しております。忌憚のないご意見や質問など、大いに意見交換できれば大変意義ある会になることと思います。

尚、農林水産省と共催で行って参りました「飼料用米多数日本一コンテスト」はこれまで 8 回実施し、飼料用米生産もかなり前進いたしました。

2 月 15 日に行いました審査会において令和 5 年度の実績者が決まりました。

表彰式は 3 月 21 日に農水省のホールで執り行いました。例年、このシンポジウムの中で表彰式も行っておりましたが、今回は別の日程と会場になっております。

本日は長時間の開催となりますが、どうぞ最後までよろしくお願い申し上げます。